

金属部会C P D技術セミナー18

歴史に学ぶ金属学

技術セミナー開催のご案内

歴史金属学3 2025年11月9日（日）

座長：田中和明

セミナー会費：500円

金属の歴史は、技術の歴史です。今回も金属の歴史に造詣の深い演者、鉄の芸術家による自由な発想で金属を語ります。ますますパワーアップした上質の金属エンターテインメントです。

第1講13:00-清水進氏（金属部会特別顧問）「プラチナとその同族金属の歴史ー（その1）」～プラチナが第7番目の金属と認められるまで～

第2講14:00-長坂絵夢氏（鉄の芸術家）

「群馬鉄山の歴史 / 鉄による制作活動について」

酸化鉄顔料「ベンガラ」の国内産地を探索する中で辿り着いた「チャツボミゴケ群生地」。苔が鉄を作り出すというこの「チャツボミゴケ」は、群馬県中之条町六合に自生し、天然記念物にも指定されている。この地はかつて「群馬鉄山」と呼ばれた褐鉄鉱の鉱床地であり、露天掘りによって鉄鉱石の採掘が行われていた跡地でもある。今回は、2022年より作品制作に向けリサーチの一環として訪れた旧群馬鉄山の歴史と、これまでの制作活動について発表する。



チャツボミゴケ外観

第3講15:00-瀬々昌文氏（金属部門技術士、元西日本工業大学教授）
「日本刀の科学のおもしろさ」

たたら製鉄によるものづくり教育に関わって以来25年、たたら製鉄で得られる玉鋼を原材料とする日本刀の魅力にもはまってしまった。日本刀は「折れず、曲がらず、よく切れる」という武具としての特徴だけでなく、日本刀独特の反りや刃文に代表される美術工芸品としての優美さも兼ね備えている。ここでは鍛錬・焼入れ等の作刀工程で起こる現象を科学技術・金属工学的な観点から俯瞰し日本刀のもつ凄さの秘密にせまってみたい。

第4講16:00-田中和明（金属部会長）「セレンディピティ金属学2」

今年もセレンディピティの季節がやってきました。セレンディピティとは「思いがけない出会い」です。今年はどんな出会いが待ち受けているのでしょうか。今回集った4人の講師をつなぐ「金属の糸」を、セミナー参加者の皆様と一緒に体感し、金属の持つ面白さ、深さを共有しましょう。1月の世界遺産とダマスカス刀について語ります。

歴史金属学シリーズについて

歴史金属学シリーズは、金属の面白さを広く皆様にお伝えするべく、自由な表現、自由な発想で回を重ねてきました。講師も、民間研究家や刀研ぎ師、そして鉄の芸術家と幅広いジャンルからお招きしています。毎回、強烈な印象を与える講師陣は、金属部会セミナーでしかなかなか出会えない方々です。この機会をお見逃しなく。

■主催 日本技術士会金属部会